

熊中

クールな(いかした)生徒
 マナーを守る(礼儀をわきまえた)生徒
 ニーズがある(必要とされる)生徒
 シーンを創れる(場面を演出できる)生徒

校長室だより
 学力特集号
 北九州市立熊西中学校
 校長 江口 恵子

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

詳しい結果分析については、本校ホームページでも公開しています。どうぞご参照ください。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、書くことについてはやや上回っている。 ・話す・聞く力や読む力を問う問題に課題がある。そのため、朝の10分間読書の充実と、話すこと・聞くことや読むことの習慣化に取り組んでいく必要がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率が全国平均を下回る問題はわずかであったが、いずれもかなり下回っているため、全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。 ・表現の技法についての問題や、文章から必要な情報を読み取る問題に課題がある。
数学A	全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回っており、基礎・基本の定着が見られる。全国平均正答率をかなり下回る問題は、ごくわずかであった。 ・領域別では、「図形」や「資料の活用」の正答率が高く、比例や反比例の意味を問う問題の正答率が低かった。
数学B	全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率を上回っている。ただ、言葉や図で説明する問題が全国平均をかなり下回っており、指導の改善が必要である。 ・領域別では、「数と式」や「資料の活用」の正答率が高く、言葉や図で説明する問題の正答率が低かった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

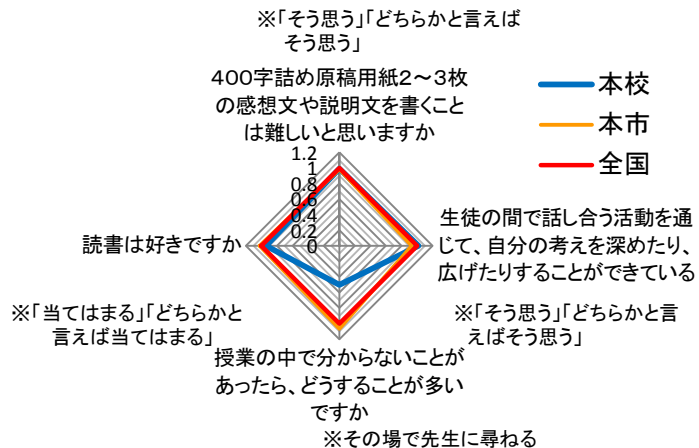
・話し合う活動の機会が与えられていると答えている生徒は、全国平均を上回っており、全校的に各教科での話し合い活動を重視している成果が出てきている。

・文章に書くことに抵抗感を持っている生徒は、昨年度と比べてやや減少している。書くことに関しては、数学Bの言葉で説明する問題の正答率が低いことにも関連が深いと考えられる。どの教科においても、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返り(まとめ)を書く活動を位置付けたりして、書くことを授業にもっと取り入れていく必要がある。

・読書に関しては、朝の10分間読書をもっと充実させるとともに、各教科で図書館を活用した学習の機会を増やす必要がある。

・分からないところを教師に気軽に質問できる雰囲気づくりをしていく必要がある。

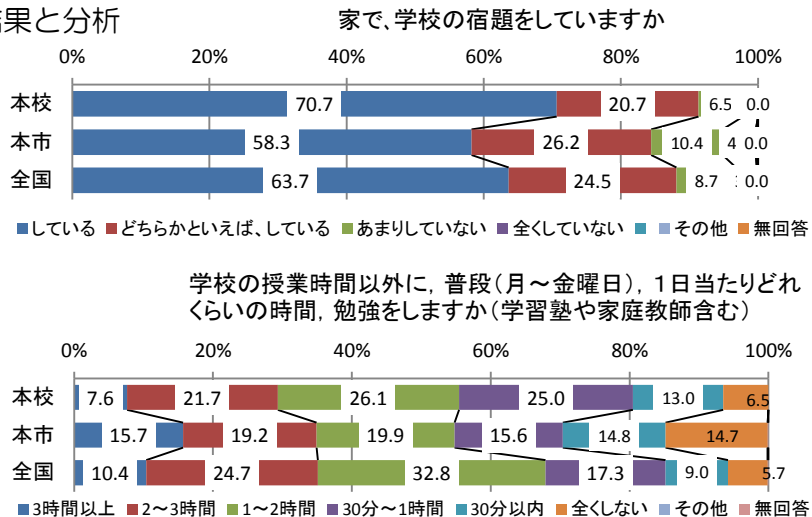
本校と本市の対全国比(全国を1とする)



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・家で宿題をしている率は年々増えてきており、全国平均より高くなっている。
- ・家庭での学習時間は、全国平均と比べ平日で80%、休日で60%と低くなっており、宿題以外の家庭学習時間が少ないことが分かる。自主的な家庭学習の大切さを自覚させる必要がある。
- ・家庭で普段30分以上読書をしている生徒の割合は、全国平均の60%で、家庭での読書習慣を定着させていく必要がある。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・「自分には良いところがある」「人の気持ち分かる人間になりたい」と思う生徒が年々増えてきており、全国平均と比べても高かった。行事等を通してさまざまな取組を行い、自尊感情や思いやりの心を育ててきた成果と思われる。
- ・将来の夢や目標を持っている生徒が、全国平均よりやや少ない。キャリア教育や進路指導の充実を図ることで高めていきたい。
- ・地域や社会で起こっていることへの関心が、やや低い。授業で新聞を活用するなどして、地域や社会の一員としての自覚を高めさせていきたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上のための強化週間の実施
 - ・ 定期考査前1週間の予想問題づくりなど、朝自習の取組を実施する。
 - ・ 定期考査前1週間の放課後教室を実施し、教師への質問の機会を増やす。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・ アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎・基本の徹底を図る。
 - ・ アシストシートや過去問題を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 各学年フロアに自主学習コーナーを設置し、自学自習や質問をする機会を増やす。
- 「書くこと」を習慣化
 - ・ 学習の最後、3分間を「まとめ(振り返り)」タイムとして、学んだことを自分の言葉で書けるようにする。
 - ・ 校内ノート展を通して、よいノートのまとめ方を理解させる。
 - ・ 生活ノートや学級日誌などに3行程度の「ミニ日記」を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 家庭学習の定着に向けた取組
 - ・ 学年全体で宿題の内容や量の調整を行い、宿題の片寄りがないようにする。
 - ・ 定期考査1週間前は、ノーテレビ・ノーゲームにチャレンジさせる。
- 自学ノートなど、自主学習の取組を推進する。
- 家庭での「読書」の習慣化
 - ・ 各学年の推薦図書を選定し、全校集会での表彰を位置づける。
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」や読書ノートなどを活用する。
 - ・ 自学ノートの学年集会での表彰、家庭学習マイスター賞への応募を奨励する。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 家庭教育学級やPTA理事会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携して協力体制を整える。